

第41回宇宙産業・科学技術基盤部会 説明資料

調達制度の検討について

平成30年9月28日

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局

準天頂衛星システム戦略室

背景

宇宙基本計画及び宇宙基本計画工程表(抜粋)

■ 宇宙基本計画（調達制度関連抜粋）（平成28年4月1日閣議決定）

民間事業者が健全な事業性を維持しながらも、衛星製造等の費用低減に合理的に取り組めるような調達制度の在り方について、諸外国の動向も踏まえつつ、検討を行う。（内閣府等）

■ 宇宙基本計画工程表(平成29年度改訂)（調達制度の在り方の検討）

（平成29年12月12日宇宙開発戦略本部決定）

- ✓ 平成30年度からは、平成29年度までに行った調査・検討を基に、民間事業者が健全な事業性を維持しながらも、衛星製造等の費用低減に合理的に取り組めるような調達制度の在り方について継続的な検討を行うとともに必要な措置を実施する。

取組の方向性

■ 今年度以降の取組の方向

民間事業者が健全な事業性を維持しながらも、衛星製造等の費用低減に合理的に取り組めるよう、米国等での取組状況調査を踏まえ、コスト見積能力とリスク管理能力の向上策を検討し、確定契約の導入・深化について平成30年度中に今後の具体的な取組内容を決定し、平成31年度から実施する。

■ 確定契約の導入・深化に向けた取組の観点

- ◆ コスト見積能力の向上
- ◆ リスク管理能力の向上（による追加コスト発生の抑制）

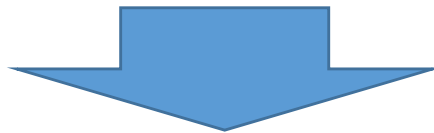
準天頂衛星システムにおける取組の方向性

○コスト見積り能力の向上

- コスト見積りの比較評価を容易にするために、平成31年度から蓄積するコストデータの様式について可能な範囲で統一するよう検討する。
- 過去の開発実績を精査し、次号機以降の契約に反映すべく契約時における原価見積もりの妥当性や要改善点を引き続き分析し、その知見を蓄えるとともに、関係事業者において自律的・継続的な製造効率向上に向けたコスト管理体制が整えられているかチェックしていく。
- 外部有識者やコンサルティングを活用し、経費の適正化、調達コストのさらなる縮減、コスト見積りという観点からも助言を求める。
- コスト・リスクの低減のため同型機を一体開発することも含め、機能面のみならずコスト面でも総合的に勘案して開発方針を検討する。

○リスク管理能力の向上（による追加コスト発生抑制）

- 現在、過去にフライト実績を有する場合は、TRL9の機器を用いて開発リスクを排除しており、今後開発する場合は、性能向上等を目指した新規機器を除き、極力TRL9の実績を有する機器を用いることで、引き続きリスクの低減及び追加コストの発生抑制を図っていく。



コスト算定とリスク管理能力をこれまで以上に高めることで、より適切なコスト・スケジュールでの契約を可能とするとともに、将来的に現在の上限付き概算契約から、確定契約の導入に向けて検討を継続する。